

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成20年9月18日(2008.9.18)

【公開番号】特開2006-163291(P2006-163291A)

【公開日】平成18年6月22日(2006.6.22)

【年通号数】公開・登録公報2006-024

【出願番号】特願2004-358594(P2004-358594)

【国際特許分類】

G 02 B 5/30 (2006.01)

G 02 B 5/18 (2006.01)

【F I】

G 02 B 5/30

G 02 B 5/18

【手続補正書】

【提出日】平成20年8月5日(2008.8.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

第1の基板の上に設けられ光の偏光を変調する第1の周期構造体と、

第2の基板の上に設けられ光の偏光を変調する第2の周期構造体とを有し、

前記第1の基板と前記第2の基板は、前記第1の周期構造体と前記第2の周期構造体とが互いに周期をずらしながら対向するように積層して固定されており、

前記第1の周期構造体の間及び前記第2の周期構造体の間は空気としたことを特徴とする光学素子。

【請求項2】

前記第1周期構造体及び前記第2の周期構造体は共に等間隔に配列した格子体を含むことを特徴とする請求項1に記載の光学素子。

【請求項3】

前記格子体は断面矩形状としたことを特徴とする請求項2に記載の光学素子。

【請求項4】

前記格子体は金属材料としたことを特徴とする請求項2に記載の光学素子。

【請求項5】

前記第1周期構造体及び前記第2の周期構造体の周期は使用波長よりも小さくしたことを特徴とする請求項1に記載の光学素子。

【請求項6】

光の偏光を変調する素子を誘電体と導電体の繰り返しによる周期構造体とし、該周期構造体を周期をずらしながら2層以上に積層し、前記導電体をマスクとして前記誘電体をエッチングすることを特徴とする光学素子の製造方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

上記目的を達成するための本発明に係る光学素子の技術的特徴は、第1の基板の上に設けられ光の偏光を変調する第1の周期構造体と、第2の基板の上に設けられ光の偏光を変調する第2の周期構造体とを有し、前記第1の基板と前記第2の基板は、前記第1の周期構造体と前記第2の周期構造体とが互いに周期をずらしながら対向するように積層して固定されており、前記第1の周期構造体の間及び前記第2の周期構造体の間は空気としたことにある。